

## 令和 6 年度 学校評価計画

**(1) 新たな学びの実現**

**【ア】 自己評価**

重点目標		① デジタル技術を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進 ② 探究的な学びのある総合的な学習の時間（シブヤ未来科）の充実 ③ 基礎・基本の定着を目指した授業の充実			
評価指標		取組内容（具体的に）	評価	成果	評価
①	月ごとの利用状況レポートにおいて、学校全体の一日の利用平均時間を 90 分以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者用デジタル教科書を 1 単位時間 30 分以上起動するとともに、TLD に学習者用デジタル教科書の効果的な活用についてミニ研修を行い、全教員に実践報告の機会を設定する。</li> <li>・単元の指導計画にタブレット端末を活用した児童同士による意見交換がある学びを 1/2 以上設定し、週の指導計画に記載する。</li> </ul>			
②	外部アンケート「学校はシブヤ未来科の学習を通して探究する学習を推進しているか。」について肯定的回答を 85% 以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究コーディネーターを中心としたプロジェクトチームを立ち上げ、カリキュラムマネジメントを行う。</li> <li>・校内研究のテーマを探究にし、全学年で研究授業を通して単元開発を行う。</li> </ul>			
③	「東京ベーシック・ドリル(算数)」診断シートの平均正答率を全学年 80% 以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京方式習熟度別指導ガイドライン」を基に指導方法の工夫・改善を図る。</li> <li>・1・2 年生は、ミライシードのデジタルドリルを活用し、3 年生以上は AI ドリルキュビナを活用し個別最適な学習を進める。</li> <li>・神宮前基礎テストを行い、基礎基本の定着を図る。</li> </ul>			

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

**【イ】 学校関係者評価**

取組に対する評価	成果に対する評価	学校関係者委員会の見解について
----------	----------	-----------------

--	--	--

学校の自己評価は、A=適正である B=おおむね適正である C=適正ではない

**(2) 安心・安全に挑戦できる環境**

**【ア】 自己評価**

重点目標		① いじめの未然防止と解決に向けた組織的な取組の推進 ② 特別支援教育の推進 ③ 安全教育の充実			
評価指標		取組内容（具体的に）	評価	成果	評価
①	外部アンケート「学校は、いじめ対応の方針をお子さんや保護者に明確に伝え、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めていますか。」について肯定的な回答を75%以上にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止に向けた授業を年3回以上実施する。</li> <li>・いじめに関するアンケートを年3回以上実施し、問題の早期発見に努める。</li> <li>・月1回の学校いじめ防止対策委員会で情報共有を行い、関係機関との連携を図りながら対応を進める。</li> </ul>			
②	教員アンケート「特別な支援を必要とする児童についての共通理解を深め、適切な支援が充実した。」について肯定的な回答を85%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内委員会を定例化して情報共有し、レベル1～3の支援段階を明確にして支援の在り方を共有し対応する。</li> <li>・特別支援教室や SC 等の関係機関と連携し、特別支援教育コーディネーターを中心に個に応じた支援の手だてを検討し実施する。</li> </ul>			
③	外部アンケート「おさんは安心して学習に取り組むことができましたか。」について肯定的な回答の割合を85%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全教育プログラム」を活用し、毎月の安全指導と避難訓練を徹底する。</li> <li>・原宿警察署と連携しセーフティ教室や自転車安全指導などの特設指導を行う。</li> </ul>			

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

**【イ】 学校関係者評価**

取組に対する評価	成果に対する評価	学校関係者委員会の見解について
----------	----------	-----------------

--	--	--

学校の自己評価は、A=適正である B=おおむね適正である C=適正ではない

**(3) 校務DX (働き方改革)**

**【ア】 自己評価**

重点目標		① 校務や会議資料のデジタル化による効率的な業務遂行 ② 定時退勤日を定め、職務に対するコスト意識をもつ			
評価指標		取組内容 (具体的に)	評価	成果	評価
①	教員アンケート「職員夕会と生活指導夕会の所要時間を各 15 分以内とするなど、会議等を効率的に行うことができた。」について肯定的回答を 80%にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡事項は予め C4th 掲示板で共有し、会議等での発言時間を短縮する。</li> <li>・生活指導に関する内容は共有フォームに記録し共有する。</li> </ul>			
②	教員アンケート「毎週水曜日の定時退勤日をはじめ、目標勤務時間を意識して働くことができた。」について肯定的回答を 80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を活用し、会議資料のデジタル化等を行い、ペーパーレスを推進する。</li> <li>・作業効率の向上とデータ蓄積のために、校務や教材共有で使用するアプリを一括化する。</li> </ul>			

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

**【イ】 学校関係者評価**

取組に対する評価	成果に対する評価	学校関係者委員会の見解について

学校の自己評価は、A=適正である B=おおむね適正である C=適正ではない

**(4) 家庭・地域との協働**

**【ア】 自己評価**

重点目標		① コミュニティスクールとして、地域の教育力を生かした学校支援体制の確立 ② 学校と家庭・地域との連携の充実			
評価指標		取組内容（具体的に）	評価	成果	評価
①	シブヤ未来科を中心とした探究学習の充実に向け、学校運営協議会を通じて地域人材の活用を年 1 回以上実施できる。	・年 5 回の学校運営協議会で学校運営の進捗状況を報告して共通理解するとともに、地域の人材・施設・企業等の活用について協議し、各学年の教育活動の充実を図る。			
②	学校評価アンケート「学校は、家庭・地域の理解と協力を得て、教育活動を推進していますか」について肯定的な回答の割合を 85% 以上にする。	・ H & S や学校ホームページ等を通して最新の情報を発信する。 ・ 保護者会、個人面談、学校公開日アンケートなどで教育活動に対するニーズを把握し、充実に資する。 ・ P T A 役員と随時連絡を取り合い、連携の充実を図る。			

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

**【イ】 学校関係者評価**

取組に対する評価	成果に対する評価	学校関係者委員会の見解について

学校の自己評価は、A=適正である B=おおむね適正である C=適正ではない

**(5) 特色ある教育活動**

**【ア】 自己評価**

重点目標		① デジタル技術 (ICT) を活用した特別活動の充実 ② デジタル・シティズンシップ教育の充実 ③ ALT 活用モデル校としての英語教育の充実			
評価指標		取組内容 (具体的に)	評価	成果	評価
①	すべての児童会活動で、タブレット端末を活用した活動を毎回行う。	・各委員会の活動内容に応じて、各種アプリを活用した活動報告や啓発資料作成、常時活動を行う。 ・Teams で各委員会のチームを作成し運用する。			
②	外部アンケート「デジタル・シティズンシップが身に付くようにタブレット端末を適切に活用した教育活動を推進していますか」について肯定的な回答の割合を 70%以上にする。	・学校公開日に情報モラル年間指導計画に基づいた授業を公開し、家庭・地域からの理解を深める。 ・タブレット端末を利用した家庭学習の実施を図る。			
③	外部アンケート「英語活動に積極的に取り組んでいますか。」について肯定的な回答の割合を 60%以上にする。	・英語の授業と共に、一部の英語以外の教科の授業にも ALT が入り、ALT との関わりを広げる。 ・イングリッシュカフェを実施し、英語でコミュニケーションを取る機会を多くする。			

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

**【イ】 学校関係者評価**

取組に対する評価	成果に対する評価	学校関係者委員会の見解について

学校の自己評価は、A=適正である B=おおむね適正である C=適正ではない